

私は「本山原人」を見た — 40年前の名大生のイメージ —

かつて1980年代を中心に、名大生の外見的なイメージを「本山原人」と呼んだ時代がありました。この言葉が初めて使われたのは、1982(昭和57)年に発行された南山大学の学生によるミニコミ誌『Campus Life 南山』第12号の、「私は本山原人を見た!! 衝撃の名大潜入ルポ」というユーモラスな1頁の記事です。

実際には、この記事の本文は、記者(南山大生)が名大構内で南山大学のイメージを尋ねて回る様子を中心としたものです。ただ、何と言っても強い印象を

与えるのは、「これが本山原人だ!!」と題した、名大生に典型的とされるあか抜けない流行遅れの身なりを、皮肉も込めて描いたイラストでした(図1)。

これに対し、名古屋大学新聞は、同年11月11日付の第588号を「文化特集号」と銘打って発行しました。同号では、1

面から3面を「文化特集 名大生気質」とし、1面冒頭の大見出しで「名大生 = “本山原人”!? あなたはどう思いますか?」と読者に呼びかけました(図2)。この特集で同紙は、真面目で素朴だがおとなしくて暗い、総じて積極性が足りないと言われがちだった、当時の名大生のイメージを問うたのでした。

この名古屋大学新聞の記事の影響は大きかったようで、翌1983年の『名大生白書』(名大祭教養部実行委員会が名大と他大学の学生にアンケートを行い、その結果を冊子にまとめたもの)では、早くもアンケートに「本山原人」が登場しました。それによると、この言葉を知らないと答えた名大生は5%未満でした。

もっとも、この名古屋大学新聞の記事には、最近では名大生も変わってきており、他大学の学生と外見では区別がつかないと語る教員や生協職員の文章・コメントが載っています。今やすっかり姿を消した「本山原人」ですが、最も栄えた時期は、実際には1980年代のもう少し前なのかもしれません。



- 1 「これが本山原人だ!!」のイラスト。名古屋大学新聞第588号に転載されたもの。転載元のミニコミ誌の当該号は、今のところ見つからない。
- 2 名古屋大学新聞第588号の1面(原紙のコピー)。その後、この話題を朝日新聞や日本経済新聞も取り上げており、この言葉の普及に一役買ったようである。
- 3 1985年の入学記念クラス写真(名大生協製作の1989年卒業アルバムより)。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学基金のご案内

名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特定基金

名古屋大学基金の中には、研究推進や人材育成など、支援目的を特定してご寄附いただける事業もご用意しております。



ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office (DO室)あて(電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp)をお願いいたします。

詳しくはホームページをご覧ください。

アクセスはこちらから

名古屋大学基金

<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/>

